

わが郷土を語る(その26)

中尾 佐之吉

小学校入学時はキモノだった

戦後50年、その間国内の諸制度も大きく変わったが、地域社会も様変わりである。その中で、われわれの衣食住など、生活様式の変化も著しい。

そこで、忘れかけようとしている戦前の衣食住のことを思い出してみることにした。まずは、着物のことについて…。

この頃では、大人でも子どもでも、男も女も、家の中でも外でも着るものは皆洋服である。近年、飛行機で外国へ多くの人が旅行されているが、服装は国内でのそれと変わらない。日本に来る外人の服装も日本人と大同小異、テレビにうつる青い目の人も黒い顔の人も、服装は誰もおなじに見える。まさに、この点だけから言えば、日本人は立派な国際人といえよう。

戦前といってももう50年以上も前であるが…しかし私にとっては、ついこの間のように思えるのだが…この地方では、まだまだキモノが巾をきかせていた。とくに家庭婦人がそうであった。昭和17年(大東亜戦争が始まった翌年)5月、私の父や近所の方らが、白石島へ旅行されたときの記念写真があった。末尾へ掲載したのがそれである。この写真で見ると、まだまだキモノを着ている人が多いことがわかる。そして、年配の方までが洋服を着るようになったのは戦後のことであると想像できる。

日本で洋服を着るようになったのは、概ね明治維新後であるが、先ずは、軍人であり警察官であった。さらには官吏であり、官公立の学校の男の先生というところ。明治17年には岡山師範学校(男子)の学生が服に、また、明治33年開校の第六高等学校生や中学生(旧制)も学生服になっていくが、小学校児童(男)が服を着るようになったのは岡山市内で大正10年頃とか。

私が、今村小学校(御津郡)へ入学したのは大正12年であるが、当時はまだ田舎だからキモノであった。そして履き物は草履である。2年生のとき村長の息子と転校してきた男の子が服を着てくるようになりびっくりする。同級生全員(男)が学童服になり、履き物がゴム靴になったのは4年生のころだったろうか。

昭和時代になると、学生はもとより一般人でも外で働く人は洋服に変わっていった。そのような風潮のなかでも、超然として「着物党」を堅持された方がいる。今村役場の長瀬芳太郎村長(明治45年-昭和6年在任)と貝原助役(大正13年-昭和20年在任)のお二人である。在任中ずっとキモノであった。洋服を着たのを見たことがない。県庁や東京の内務省への陳情(水道敷設のことで上京しておられる)などにはどんな服装で向いたのだろうか。堂々、羽織・袴で乗りこんだのだろうか。聞いて見たいが、故人になっておられてはどうしようもない。

また、小学校の難波健治校長(明治38年-大正13年在任)もキモノ党であったようだ。ほかの男の先生は洋服なのに、校長先生はいつも和服だ。記念節や天長節の式のときも羽織袴で教育勅語を奉読された。当時、来賓の長瀬村長も校長先生同様の服装であったのはいうまでもない。

その校長先生が、大正7年にほかの先生方と記念写真を撮っておられるが、その写真では「フロックコート」を着ておられる。(今村史掲載)難波校長先生にもこういう時代があったのかと思いなおす。それに、大正3年の詰襟服での写真もあるから、根っからの「着物党」ではなかったのかもしれない。

戦後は洋服オンリーで、キモノは見限られたかの様相だが、男も女も外で働く時代で行動範囲も広がってくるし、まして、車社会では、活動性のある服装が要求されるのは当然であろう。

家に居るとき、蒸し暑い夏の季節には「ユカタがけ」でくつろぐという気分も悪くはないが、冷暖房の完備したこの頃では、いまさらと冷笑されそうだ。それでも、町内の「夏まつり」に踊っている娘さんやお母さん方のユカタ姿は、まことにさわやかだ。洋服時代といっても、このような場所では、やはりキモノがふさわしく思える。

どのような時代になろうとも、キモノはすたらないにちがいない。



田中に公民館建設中

去る8月25日に安全祈願祭を行い建設に着手、来年3月の完成を目指して工事が進められています。来年には待望の立派な公民館が建ち利用できると思います。

- 建物の構造 鉄筋コンクリート 一部鉄骨造 2階建
- 床面積 984.05㎡
- 総工費 7億9千万円(含用地費)
- 建築業者 岸本建設株式会社
- 所要室 事務室、小会議室、市民ふれあいコーナー、実技室、喫煙コーナー、図書コーナー、研修室、美術工芸室、なかよしのへや、料理講座室、第1・2講座室、便所、管理諸室等

秋のクリーン作戦ご苦労様

9月17日に町内一斉清掃を行いました。公園はもとより町内全体がとてもきれいになりました。この度のクリーン作戦は老人会、子供会も加わり、文字どおり町内あげての参加を頂きました。(参加者200名以上)本当に有り難うございました。心から厚くお礼を申し上げます。

特に次の世代を担う子供達が、このような清掃活動を通して勤労の心協力の心、ボランティア精神、郷土愛を少しでも養うことができれば幸であります。これからも直接目には見えませんが、図り知ることができない素晴らしい心の教育と考えて参加させてやりたいものだと思います。



スポーツの秋

◆ 10月メモ ◆

- 10月1日(日) 御南小学校運動会
- 10月8日(日) 福祉センター運動会
- 10月10日(火) 体協運動会・体育の日
- 10月14~15日(土・日) 白髭宮秋祭り



— あとがき —

昨年に続いて今年も殊の外暑い日が続いた。内外共に猛暑で亡くなられたり、病気になられた人も多い。地球がどこか狂ってきている感じだ。お陰で田中野田では、みんな元気でのりきることができた。ありがたい。

(和気・原)